

2019年度研修 アンケート 集計

介護支援専門員協会淡路島支部

《研修実施日、会場》

令和1年8月9日 洲本市文化体育館

《研修講師、テーマ》

ひょうごセルフヘルプ支援センター代表 中田 智恵海（なかだ ちえみ）氏

「一人ひとりが自分らしく暮らせる地域づくりのためにセルフヘルプグループができること
～当事者と共に考え、実践する専門職の役割とつながり～」

《アンケート記入者数》

53人/64人 【回答者の内訳：介護支援専門員 52名、その他 1名】

1 本日の講義についてお尋ねします

話の内容についてはいかがでしたか？

合計	とても 解りやすかった	ほぼ理解できた	解りにくかった
53	23	28	2

2 演習はいかがでしたか？

合計	とても 参考になった	まあまあ参考になった	参考にならなかった	その他
53	28	24	1	0

3 本研修に参加して、当事者支援・家族支援をすすめていくうえでの課題や気づきがあれば、教えてください

・セルフヘルプグループについては理解できたと思う。グループのつながりで共有できても解決につながるのでしょうか？生きづらさを据える人の悩み、共有して支え合うグループの事例を聞いてみたい。

・自らの偏見に気づいてく。参加者によって求めているものが違う。つなげることの大切さ。

・つながりによりエンパワメントされることは仕事をするうえで利用者に「意欲」や「生きがい」を持ってもらえる瞬間に通じるものだった。

・専門職の寄り添い

・声を上げることのできる当事者がいない場合、必要あれば自然とセルフヘルプグループはできるものなのか。

自分の持っている偏見を変えようとする努力。自分一人で頑張らず多職種とつながることで自分も楽になれる。

・5～7人のグループであれば意見交換がよくできるように思いました。

・同じような体験をしていても感じることは人それぞれ。

・専門職として「何かしないと！」という使命感にかられることもありますが、今日の講義を聴き、一つの手段・方法として考えられたらと思いました。当事者・家族のエンパワメントも大切だと感じました。

・「セルフヘルプグループは地域づくりの基盤」という言葉が印象的でした。分母を大きくすることで地域での困りごとが小さくなる。

・紹介してもつながらない人には無理にしなくてもよいという話を聞いて楽になりました。

- ・利用者や家族を孤立させないこと、気持ちを共有していこうと努力していく。自分自身を振り返ることを行っていききたい。
- ・病気に対して自覚のない当事者への支援
- ・つなぐことの大切さ。変革の意識を持っているか考えることが必要だと感じました。
- ・セルフヘルプグループに紹介して参加しない利用者がいても、それは運命だと理解できる。
- ・自分自身が知らなければススメてはいけないと思いました。
- ・ケアマネジャーの立場として悩むこともたくさんありますが、つなぐことを大切につなげる役目として頑張りたいと思いました。
- ・当事者の思いと家族の思いに違いがあり、双方の言い分を聞き入れて理解してもらえよう話し合っ
ていききたいと思います。
- ・つながらないのも運命。印象的でした。
- ・経験上のことをたくさんお話しいただきましたが、なかなかセルフヘルプグループは難しい。ただ、
本人同士が同じ境遇というだけでは無理なのなかと思う。同じ障害を持っていても同じような気持ちに
なったり同じように感じるとはかぎらない。
- ・声を上げることの大切さ。それでつながりができる。
- ・様々な考えや支援がありスッと当てはまらないことが多くあるという事を再認識できた。
- ・セルフヘルプグループがいろいろできてくれば良いと思うようになりました。
- ・あまり悩まない、深く考えないようにすることも大事。支援者がぶれないように気持ちを軽くしてい
く、何でも話していく、つながっていく、ためこまないことが大事。
- ・「グループがなくなってもよい」ということが、目からうろこでした。
- ・変な責任感を持たず、当事者・家族支援をゆるく支援につなげていけるようにと思った。
- ・支援グループを紹介する、それがその人にとってよいかどうかは「その人次第」であるということ。
- ・セルフヘルプグループについて初めての研修機会を得て困りごとにつなげていける場所が見つかった
気がしました。
- ・「～すべきでなくてよい」とあらためて思った。
- ・つながることで点が線になり、線が面になる、つながることが力になる。たくさんの嬉しかったこ
と、楽しかったことも力になります。
- ・支援に必要なセルフヘルプグループを紹介していきたいです。
- ・参加を無理に勧めない。提案は行うが参加はあくまで自主性に任せる。
- ・価値観合わせの大切さ。セルフヘルプグループの活用は、利用する人によって目的がさまざま。悩み
を抱えるクライアントがいれば積極的に活用したいと思った。
- ・絶望から立ち上がるためには孤独にならないことが一番なのだった。
- ・セルフヘルプグループの情報に乏しいので、社協から資料をもらって調べてみます。
- ・楽しい雰囲気での得たお話でした。つながりが大切、どうにもならないこともある。
- ・いろんなセルフヘルプグループがあると思うが淡路島には少ないのではないかと思います。セルフ
ヘルプグループや他の周りの支援があっても、最終的には本人自身のエンパワメントが必要なのだと感
じました。
- ・2～3年は活動はあるが継続が難しい。
- ・無くなるうしとしているグループや団体を守ることをやめます。
- ・この場に参加した支援者が自身の「内なる偏見」にどのように向き合いながら業務にあたっていく
か。そのことを考えさせられた研修でした。
- ・つなげていくこと。その支援があることに気づくことができました。

4 今後、聞いてみたいと思われるテーマはありますか。

- ・地域づくりについて
- ・高齢者の免許返納

- お酒やたばこの問題
- QOD(クオリティ・オブ・デス)について
- 支援困難事例について
- ケアマネジャーと直接関係ない講師の研修も楽しかったが、もっと実践に役立つ話も聞きたくなった。
- 「看取り」について
- 都会のサービスの色々
- なんでもうれしいです。
- ファシリテーション
- コーチング
- 8050問題、ひきこもり、2025年問題

5 その他、ご意見や要望等ございましたらご記入ください

- セルフヘルプグループとして無理に紹介しなくてもよい、つながらなかつたらそれまでと講師から話があったが、大切なのはグループをつなぐという事、仲間をつなぐことが大事だと思った。
- 講義の冒頭に口唇口蓋裂を例に出されて話をされたのですが、自身の姪がそのことが理由で不登校児であったため気持ちのうえで拒否があったのか、なかなか話か入ってこなかったです。
- 中田先生のお話をもう一回聴きたいです。
- 面白いお話しでした。
- たいへんおもしろかったです。
- この研修が、私自身のセルフヘルプグループのような感じになっていたように思います。困ってること、うれしいことを共有して楽になる部分がありました。
- たいへんためになる研修会でした。ありがとうございました。
- もう一度先生のお話を聞きたいです。
- わかってもらえるとは思わない。サポートしあえたり、参考とするだけでも良いのだとわかった。
- 室温が低くてつらかった。
- 和やかで楽しい研修でした。絶望した時に相談できる場所ができました。
- 知りえなかった内容だったので、新しいことが聞けて楽しかったです。
- 仲間と話ができてよかったです。
- タイムスケジュールの管理は大切と思った。次第通り進まなかったなのでその内容が気になったまま終わった。
- もう少しくわしくお聞きしたかったです。
- ひとりケアマネなので、相談相手はこういった場くらいしかありません。どちらかという聞いてもらうほうだったので、ちょっと楽になりました。
- ユーモアを交えながら的確なコメントが素晴らしいと感じました。大変勉強になりありがとうございました。

6 本年9月2日開催の「福祉専門職対象防災対応力向上研修」に参加しますか

参加する	20名
------	-----

【中田先生からのコメント】

皆さんが熱心に参加して下さいってやりがいがありました。研修はその時臍に落ちて、何かのきっかけで、あれ！って疑問に思うものです。そのつど、どうだったかなあ… どういう考えだったかなあ、と反芻していただきますように。